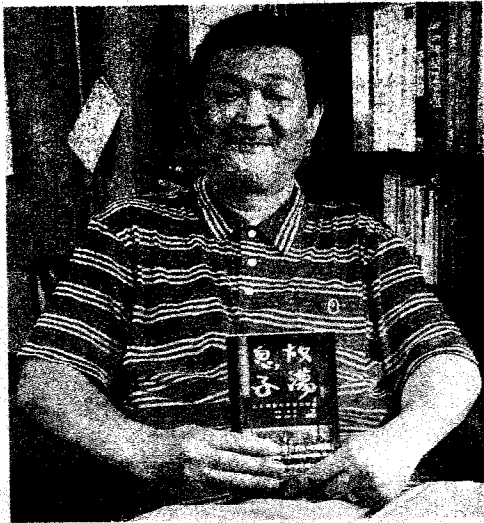


河北新報

7月17日(土)

仙台 支援施設代表が自伝「放蕩息子」



自伝「放蕩息子」を出版した飯室さん

薬物依存症者の回復を支援する民間施設「仙台タルク」（仙台市青葉区）の飯室勉代表（46）が、依存症から立ち直るまでの実体験をつづった自伝「放蕩（ほうとう）息子」を出版した。飯室さんは「ありのままの自分や恥ずかしい過去を認め、見つめ直すことが回復への第一歩になる」とのメッセージを発信している。

タイトルは、自分勝手なと、自分の人生を重ね合わせた男が最後には父の愛情で、かけてまとめ、飾らない言救われるという聖書の物語。薬で、薬物の怖さや依存症

薬物依存克服の軌跡

覚せい剤・逮捕 過去告白 「再出発 一緒に」

から抜け出すことの難しさを伝えようとしている。

特に、16歳でシンナーを始め、覚せい剤にも手を出した飯室さんは著書で、薬物を始めるまでの人生の悩みや、やめたいのにやめられない絶望感を告白。幻覚と幻聴に襲われ、母親に通報されて刑務所に入った経験も吐露した上で、出所後にタルクで同じ境遇の仲間ができ、ようやく再出発の道が開けた過去を紹介している。

飯室さんは「薬物依存症は病気。メンツを気にして一人で抱え込まず、人の助けを借りることが大切。多くの依存症者に読んでほしい、一緒に歩もうと呼びかけたい」と語る。

268頁、1600円。

連絡先は仙台タルク022(261)5341。